

2012年1月1日から2019年12月31日までに
当院で急性喉頭蓋炎にて加療を行われた患者さんへのお知らせ
「当院における急性喉頭蓋炎の現況」へのご協力をお願い

急性喉頭蓋炎は、高度な気道狭窄を急激にきたし致命的となることもあるため迅速な対応が必要とされる疾患です。しかし気道確保を行う適応や時期についてはいまだ基準がない状態です。

そこで今回2012年1月1日から2019年12月31日までに当科で経験した急性喉頭蓋炎について後ろ向きに検討を行います。今回の調査結果をもとに当院における急性喉頭蓋炎の治療が迅速に行えればと思います。

対象者は2012年1月1日～2019年12月31日までに当院で急性喉頭蓋炎にて治療を行われた方です。

研究期間は2018年6月20日から2023年3月31日までです。

本研究は川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て行われています。

1. 治療介入を伴わない「観察研究」で、既存資料のみを用いた研究であるため、新たに人体試料は採取しません。この研究で収集する情報は性別、年齢、病因、術後出血の有無、入院期間等で、個人が同定されうる情報(カルテ番号も含め)も収集しますが、情報管理者によって匿名化されます。本研究に使用した情報は論文等の発表から5年間、耳鼻咽喉科学教室にて保管いたします。

2. 本研究は学内研究費のみを使用する研究のため、患者さんに負担が生じる事はありません。

3. 研究をするために必要な資金をスポンサーから提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態と言います。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

4. 研究に関してご質問などのある方、研究に情報が利用されたくない方は2020年4月30日までに下記までご一報下さいますようお願い致します。本研究に関する利益相反の有無について川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。

ご希望があれば他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で研究計画書及び関連資料を閲覧する事が出来ますのでお申し出下さい。

問い合わせ先：川崎医科大学総合医療センター 耳鼻咽喉科 宇野 雅子
岡山市北区中山下2-6-1 086-225-2111 jibika-ok@med.kawasaki-m.ac.jp